

インターバンクの声（2016 年 10 月 5 日）

今週は週末の米雇用統計の発表まで相場に大きな変化は起こり難いだろうと思っていたが、ポンドとユーロは水準そのものが変わりそうな動きになっている。

ポンドは先週末、メイ英首相が欧州連合 (EU) からの離脱のプロセスを来年 3 月末までに始めると表明したことで、週明けから主要通貨に対して大幅に下落し始めた。これまでは EU 離脱の決定による英経済への影響が軽微に留まっていたため、離脱による先行き懸念が表面化してこなかったが、メイ首相の発言で一気に EU 単一市場へのアクセスを失うことへの不安が噴き出したのだろう。ポンドは対ドルで実に 31 年ぶりの安値まで下げている。ユーロも先月末のニューヨーク市場早朝に不自然な上昇を見せた後、昨日にはその上昇前の水準に戻しながらも、再び大きく上昇した。昨日の上昇は、欧州中央銀行 (ECB) が資産買い入れプログラムの縮小を計画しているとの関係者の話を金融情報サービス会社が報じたためだ。ECB の報道官がこの報道を否定し、上昇後の高値からは少し調整が入ったが、簡単に納得できるような類の話ではない。米大統領選挙が市場に影響を与える年内最大のイベントと考えられていたが、市場にはその時を待たずに大きく動き出しそうな気配もある。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。